20220327　　猪高の森自然観察会　2022 年 3 月報告書

猪高の森自然観察だより　３月号

開催日時：2022年 3 月 27 日（日）　9:30～12:05
天候：晴、風がやや強い　気温：最低 12.1℃、最高 20.9℃
テーマ：里の春探し・春の七草探し
参加構成：一般 17 名（うち NACS－J 指導員３名、保護者１名）、小学生以下２名
コース：森の集会所　→　生涯学習センター前の広場　→　アーチェリー場横の原っぱ
→　塚ノ杁池堤体　→　シダレザクラの里　→　こもれび池　→　森の集会所

１月＋２月の降水量は 18 年ぶりの少なさ、おまけに３月半ば頃には、４月中下旬の気温の日があったり、乾燥注意報が連日発出されるなどカラカラ天気が続きました。

やっと、今月中旬から雨が３～４日おきに降り、今の気候らしくなってきました。

集会所の窓枠近くで越冬していた**ナミテントウ**もいなくなり、３月９日に「**ウグイスの初鳴き**」が観測され、今回の観察会でも期待が持てます。今の時期にしか出会えない動植物たち、遠景の林の色が変わっていく姿など、限りがありません。

桜の**ソメイヨシノ**の開花宣言が３月２２日に名古屋で出され、平年より２日早いとのこと。やや早く咲き始めるシダレザクラに期待する声が、参加者の方々から上がります。

当初は「雨」の予報だったこの日は、早朝には雨も上がり、若干風が強かったことを除けば、絶好の観察日よりに、なりました。

初めに、これからの緑地での注意するべき生き物たちのこと（特にスズメバチ）に軽く触れて出発しました。

（画像は別の日に撮ったものを含みます）

ウグイス
「春告げ鳥」の別名を持ち、「日本三大鳴鳥」の一つとされる。でも、上手に美しくさえずるには、練習が必要らしい。

●生涯学習センター前の広場にて

左の２枚は、**ハラン**の実（左）と花（右）。ハランの葉は、高級料亭などで、包丁で細工をしたものが飾りなどに使われます。

この季節に根元で落ち葉などに隠れるように花が咲きます。受粉に関係する昆虫は、**キノコバエ**との事。短期間の開花なので、この日は、残念ながら見られませんでした。

アセビは漢字では「馬酔木」と書きます。

アセビの花

花はきれいですが、毒があります。

理由は、この樹を食べた馬が酔ったようになるからですが、実際はそんな生易しいものではなく、かなり危険な状態になるとのこと。放牧地などでは、放されている牛や馬たちは、決してこの樹の葉は食べないそうです。飼料などに混ざると、大変なことになります。

ツツジ科のこの仲間には、この他にも**レンゲツツジ**などの毒のあるものもあれば、**ブルーベリー**や**シャシャンボ**など、果物として美味しい有益な種類もあります。

園芸植物として色の変わった種も出回っています。

この時期に、森や林を歩いていると、ガス臭いような、独特な香りに出会います。日本で一番数の多い樹とされている**ヒサカキ**の花の香りです。雌雄異株と図鑑には良く記載されていますが、一本の樹に雄花と両性花、雌花と両性花が咲いたり、その両性花が不完全だったりして、実際はかなり複雑です。

まだ、その仕組みは研究途上にあるとのこと。詳しいことをお知りになりたい方は、丁寧に説明してあるサイトがあります。 http://www.juno.dti.ne.jp/~skknari/hisakaki.htm

よく見るヒサカキ、仏花にもよく使われる身近な樹ですが、謎多き樹なのです。

をご覧になってください。ヒサカキは、最近はモッコク科に分類されています。

震動傾性感覚植物ってご存知ですか？

震動傾性とは「風や振動などが刺激となって植物が示す傾性反応をいう。（コトバンクより抜粋）」

オジギソウが触って葉を閉じる運動などがこれにあたりますが、雄しべに触れると、曲がる樹や花が身近にあります。よく公園や庭に植えられている**ヒイラギナンテン**がそうです。

震動傾性感覚植物！

ヒイラギナンテン

虫たちが訪れたときに、雄しべに触るとそちらに曲がり、花粉を虫の体に付けることによって、受粉の媒介を手伝ってもらうため、ではないかと考えられています。もし、お近くにあるようでしたら、試してみてください。細い木の棒などで、花に訪れた虫の気分で、ちょっと触れて見ただけですぐ曲がります。

マツバボタンなど他の草花や樹でもこの現象が確認できるとの事です。

生涯学習センター前の広場の樹や花は植えられている種類がほとんどですが、それでもこれだけの観察が出来ました。

●アーチェリー場横の原っぱは春の花がいっぱいでした！

オオイヌノフグリ
別名は「星の瞳」

ヒメオドリコソウ
実はヨーロッパ原産

ホトケノザ
春の七草のホトケノザとは別種です。

ナズナ
別名をペンペングサとも

カラスノエンドウ
スズメノエンドウもあります

ハコベの仲間

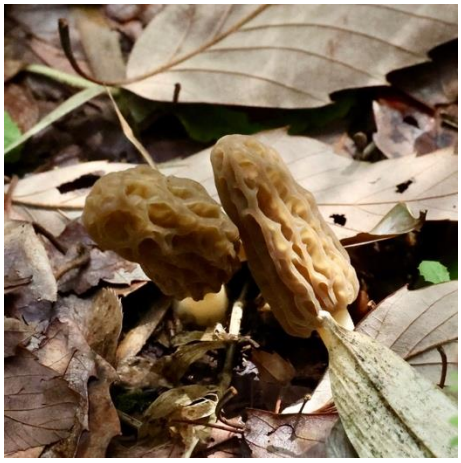
ニホンタンポポ
舌状花が集まってひとつの大きな花（頭状花）を作ります

ムスカリ
これは、人が植えた園芸植物です。球根で増えます

ツクシとスギナ
地下茎でつながる同じ草

この場所は他にも**フラサバソウ**や**タネツケバナ**の仲間、人が植えた**スイセン**や**ハナニラ**などの園芸種もあり、可愛い原っぱになっていました。

●こんなキノコもみつけました



左は2種類ともアミガサタケの仲間と思われます。左が**トガリアミガサタケ**（？）、右が普通の**アミガサタケ**（？）。

料理するときは、毒性があるので、充分に茹でこぼさないといけないとか・・。キノコの世界も多種多様です。

アラカシの新芽

アジサイの新芽

コナラの発根

アケビの蕾

アオモジの花

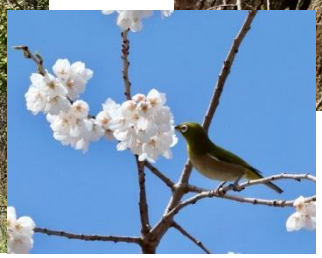
ヤマブキの花

樹々も活動を始めています。硬い冬芽がほどけて若々しい春の芽だしとなり、**コナラ**のドングリは根を地中に深く潜り込ませて、幹を立ち上がらせようとしています。早春の**ヤマブキ**や**アオモジ**は、アセビやヒサカキに負けじと花を咲かせ、アケビの蕾ももうすぐ開きます。

●虫たちも暖かい日は動き始めています

左は**キタキチョウ**、中は**ムラサキシジミ**、右は**コガタルリハムシ**の幼虫です。成虫で冬越しをしたり、新しく羽化したり、種類によっていろいろです。このほかにも**モンシロチョウ**、**モンキチョウ**、**ルリタテハ**、**テングチョウ**が観られました。

●シダレザクラは見事でした



← 蜜を吸いに来たメジロ

ここシダレザクラの里は、元々は畑でしたので、いろいろな樹や花が植えられています。季節によって姿が変わりますが、桜の咲く時期にはこんな花も楽しめます。

ショカツサイ

シナレンギョウ

テンダイウヤク

トサミズキ

コウグイスカグラ

キブシ

コブシ

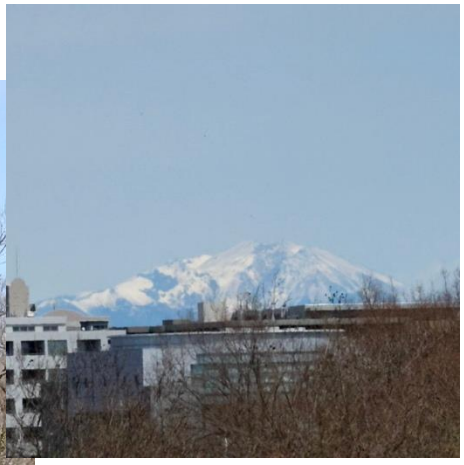
カワヅザクラ

中には、自然に生えてきた樹もあり、中々賑やかな場所になっています。

左は、この時期にしか見られないビロードツリアブ。
「ふかふかの体毛、丸っこい体、長い口吻」
が、特徴のアブの仲間です。吸蜜するためにホバリングをしている姿がよく見られます。
　幼虫はヒメハナバチ類の幼虫に寄生します。
　（吸蜜している花はショカツサイ）

　左は、ニホンアカガエルのオタマジャクシ、孵化してもう大分大きくなっていました。５月中には陸に上がります。中はヒメリュウキンカ（？）、もしそうなら、外来種がまた増えてしまいます。左は、スミレの仲間、日本はスミレの種類が多い国です。これからが楽しみです。

こもれび池の入り口に**クズ**の年を経た太い株があります。
その葉痕が左。
「私を忘れちゃイヤ！」と言っているようなので、載せました。遅くなってごめんなさいね。



堤体から見た御嶽山
強い風で雲が吹き払われたようです。
左のシダレザクラとのコラボは中々見事でした。

この時、**ツバメ**の姿が、上空を横切り、今年の猪高の森での初見となりそうです。
途中では**ウグイス**のさえずりも聞くことが出来ました。

次回は、４月２４日（日）９：３０～　森の集会所集合です。

一緒に歩きませんか！